

退職される先生方へ 図書のご寄贈を受け入れています

図 書 課

図書館では、以前より、退職される先生方の収集された図書を、先生方のご意向に沿って受け入れています。

私たちは、このことをとても重視しています。図書館の蔵書は、東京専門学校以来の歴代の数多くの教員が選り、寄贈した図書・資料によってその骨格がつけられているとあって過言ではありません。

旧図書館時代、書庫の狭隘化のために一時受け入れをお断りしたことがあり、そのため「図書館に寄贈を申し出ても、いい顔をしない。」というような風評も一部にあるようですが、そんなことはまったくありません。図書館は日々、多くの学外諸機関や校友、一般篤志家からの寄贈を受け入れており、今後とも、よい資料をどんどん受け入れてゆく方針であることに変わりはありません。

寄贈図書受け入れにあたっては、以下のような原則を設けています。

原則的に、図書館の既存の蔵書と重複しないものを図書館蔵書とする。重複図書についてはストックしておき、海外諸機関への寄贈などにあてる。

図書・資料は日々どんどん増加してゆくの、スペースを有効につかう意味から、なるべく蔵書の重複は避け、これまで図書館で未所蔵のものを受け入れてゆくという趣旨です。いただいた図書はまずWINEで所蔵の有無を調べ、所蔵のあるものとないものに分けます。この場合、版の異なるものは重複とは見なしません。

未所蔵のものはほぼすべて図書館蔵書として受け入れることとなりますが、中央図書館における選書基準と適合しないもの、具体的にいうと文庫・新書、実用書などは原則として省きます。

図書館蔵書と重複した図書は、ストックしてお

き、資料の寄贈を希望する海外の図書館等への早稲田大学からの寄贈にあてます。近年、海外の大学図書館等諸機関からの資料寄贈の要望が高まっており、早稲田大学図書館では今年度に限っても、ドイツのエルフルト大学図書館、フランスのリヨン大学図書館、ウズベキスタンの世界経済外交大学などに多くの重複図書を寄贈しています。

かつては、寄贈図書を受け入れても、すぐには整理ができないために、段ボール箱に入れたままの状態でも倉庫に置いたままにしておき、文字どおり死蔵とせざるを得ませんでした。しかし今日では、スペースの確保とWINEにおける遡及データ入力完成により、重複調査からはじまる一連の作業の流れが可能となり、図書はいつも動いています。図書・資料は、それを必要とする人のいるところへ運ばれ、有効活用されるべきであるという観点から、海外諸機関への寄贈は今後も可能なかぎり進めてゆく方針です。

なお、以上のような処理の流れは、印刷された資料に関してであって、江戸時代以前の古書・古文書資料や稀覯本等については、この限りではありません（古書資料は重複にかかわらず、すべて特別資料として受け入れます）。

退職される先生方が、研究室にある図書・資料を整理される場合、ぜひ図書館にご相談ください。図書館では選書アドバイザー制度なども設けていますが、ご専門の先生方の収集された図書はそれぞれの分野において一級の、きわめて役立つ資料との認識をもっています。図書館の蔵書をさらに向上させるため、ご協力をお待ちしています。

この件にかんするお問い合わせ先

図書課長 松下真也 電話内線71 - 5025

各学部教員図書室経由でも結構です。